

CASBEE[®]-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.01)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	Jeep HAMAMATSU	階数	地上2F
建設地	静岡県浜松市中区天神町92-2	構造	S造
用途地域	防火地域	平均居住人員	50人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,920時間/年(想定値)
建物用途	物販店,工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年11月 予定	評価の実施日	2022年6月5日
敷地面積	1,697㎡	作成者	加藤 秀男
建築面積	1,364㎡	確認日	2022年6月17日
延床面積	2,765㎡	確認者	加藤 秀男



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.5

LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.6

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項

総合	その他
・積極的な建物緑化を各所に計画し、まちなみの景観向上に寄与する施設づくりを目指した	・特になし
Q1 室内環境 ・断熱性能を向上させ、快適な室内環境を確保している。	Q2 サービス性能 ・特になし。
Q3 室外環境(敷地内) ・限られた敷地内には積極的な緑化に努め、まちなみの景観に配慮した計画としている。	Q3 室外環境(敷地外) ・特になし。
LR1 エネルギー ・特になし。	LR2 資源・マテリアル ・便器等の設備機器に節水型を採用し、水資源に配慮した計画としている。
	LR3 敷地外環境 ・特になし。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要				
建物名称	Jeep HAMAMATSU	BEE	1.1	BEEランク B+ ★★★

2. 重点項目への取組み度				
重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価	
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.6 /5		ふつう	
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.9 /5		がんばろう	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.3 /5		ふつう	
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.8 /5		がんばろう	
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上
			がんばろう 3 点未満	

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目	
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。			
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)		得点	3.6
<ul style="list-style-type: none"> ■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) 	Q-1 2 2.1 2.2	① 外皮性能	
	Q-1 3 3.1 3.13	② 昼光利用設備	
	Q-2 2 2.2 2.2.1	③ 昼光制御	
	2.2.2 ④	④ 躯体材料の耐用年数	
	2.2.3 ④	④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔	
2.2.4 ④	④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		
2.2.5 ④	④ 空調換気ダクトの更新必要間隔		
2.2.6 ④	④ 空調・給排水配管の更新必要間隔		
2.2.6 ④	④ 主要設備機器の更新必要間隔		
Q-3 1	⑤	生物環境の保全と創出	
3 3.2	⑥	敷地内温熱環境の向上	
LR-1 1	⑦	建物外皮の熱負荷抑制	
2	⑧	自然エネルギー利用	
3	⑨	設備システムの高効率化	
4 4.1	⑩	モニタリング	
4.2	⑩	運用管理体制	
LR-2 1 1.1	⑪	節水	
1.2 1.2.1	⑪	雨水利用システム導入の有無	
1.2.2 ⑪	⑪	雑排水等利用システム導入の有無	
2 2.1	⑫	材料使用量の削減	
2.2	⑫	既存建築躯体等の継続使用	
2.3	⑫	躯体材料におけるリサイクル材の使用	
2.4	⑫	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	
2.5	⑫	持続可能な森林から産出された木材	
2.6	⑫	部材の再利用可能性向上への取組み	
3 3.1	⑬	有害物質を含まない材料の使用	
3.2 3.2.1	⑬	消火剤	
3.2.2 ⑬	⑬	断熱材	
3.2.3 ⑬	⑬	冷媒	
LR-3 1	⑭	地球温暖化への配慮	
2 2.2	⑮	温熱環境悪化の改善	
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)		得点	2.9
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) 	Q-2 2 2.1 2.1.1	⑯ 耐震性	
	2.4 2.1.2	⑯ 免震・制振性能	
	2.4.1 ⑰	⑰ 空調・換気設備	
	2.4.2 ⑰	⑰ 給排水・衛生設備	
	2.4.3 ⑰	⑰ 電気設備	
	2.4.4 ⑰	⑰ 機械・配管支持方法	
	2.4.5 ⑰	⑰ 通信・情報設備	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)		得点	3.3
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑲バリアフリー新法の建築物移動等円滑化基準相当の計画とした。 ■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) 	Q-2 1 1.1 1.1.3	⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画	
	3 3.1 3.1.1	⑲	階高のゆとり
	3.1.2 ㉑	⑲	空間の形状・自由さ
Q-3 3 3.1	㉑	地域性への配慮、快適性の向上	
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)		得点	2.8
<ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (⑳生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/㉓敷地内温熱環境の向上) ㉓建物上に緑化をし外構緑地指数30%以上を確保した。 ㉓緑地を確保するため建物植栽計画を行った。 ■敷地外環境対策 (⑳持続可能な森林から産出された木材/㉔温熱環境悪化の改善) 	Q-3 1	㉓	
	2	㉓	生物環境の保全と創出
	3 3.2	㉓	まちなみ景観への配慮
LR-2 2 2.5	㉔	敷地内温熱環境の向上	
LR-3 2 2.2	㉔	持続可能な森林から産出された木材	
	㉔	温熱環境悪化の改善	